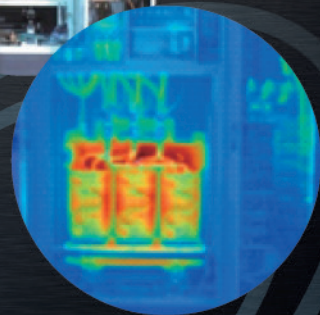


赤外線サーモグラフィ装置による 電気設備診断サービス

24時間365日安定稼働が要求される
電源設備において、
稼働状態で設備の診断を行います。

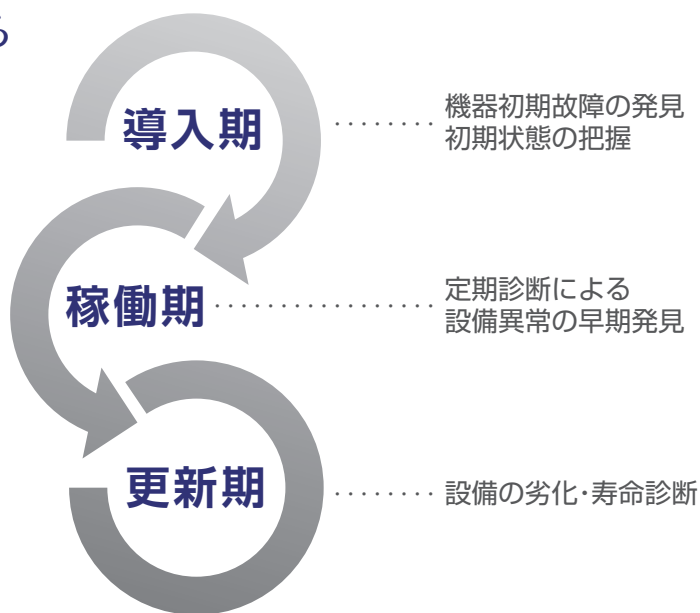
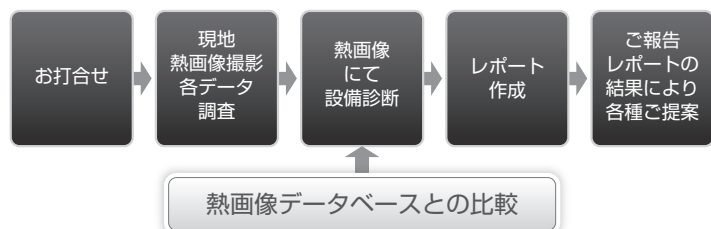


電気設備の劣化や不具合の多くは部分的な発熱として現れます。当社では赤外線サーモグラフィ装置を導入し、設備の温度分布を「面」で測定します。これまでの放射温度計やサーモラベルのような「点」での温度測定では把握しきれない設備の診断を行い、劣化や不具合の兆候を検出し、事故を未然に防ぐことが可能になります。

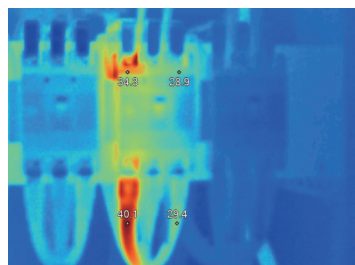
❖ 国分電機のサーモグラフィ装置による 電気設備診断の特徴

- 設備を停止することなく稼働状態で診断
- 配電盤製造メーカーならではの長年蓄積された技術データベースとの照合による解析
- 工場試験設備の保有により現地での疑問点の再現実験が可能
- 診断結果に基づいた、お客さま設備に最適なお提案

❖ 設備診断の流れ



❖ レポートサンプル



熱画像



可視画像

メイン熱画像のマーカ

部 位	温 度
MCCB1次側 R相 端子部	34.3°C
MCCB1次側 T相 端子部	28.9°C
MCCB2次側 R相 電線部	40.1°C
MCCB2次側 T相 電線部	29.4°C

一度の撮影で熱画像と可視画像が同時に得られますので状況判断が容易です。

これまでの活線での設備点検は、盤面のメータやサーモラベルなどの確認の他に異音・異臭など人の感覚で行っていましたが、これに熱画像のデータが加わることで、設備の部分的な劣化や設備の増設などによる熱ストレスを面の温度データとして把握でき、評価活用が出来ます。



【ご注意】

サーモグラフィによる画像診断は、設備稼働状態において温度変化による設備の診断を行うサービスですが、診断の結果異常の兆候が認められた場合には設備機器を停止させて詳細の調査を行う必要があります。